

船舶事故等調査報告書

平成22年5月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009神第381号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成21年11月30日 03時00分ごろ	
発生場所	和歌山県日ノ御埼西方沖 紀伊日ノ御埼灯台から真方位286° 5,180m付近（概位 北緯33° 53.9′ 東経135° 00.5′）	
事故等調査の経過	平成21年12月21日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	<p>A 貨物船 ^{きよしま}清島丸、499トン 137011、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構及び鈴予海運株式会社</p> <p>B 引船 ふじ丸、97トン 129600、興洋船舶有限会社</p> <p>C 台船 ひろ航洋1号、長さ55m なし、エンジニアリングヒロ</p>	
乗組員等に関する情報	<p>A 二等航海士、五級海技士（航海）</p> <p>B 船長、五級海技士（航海）</p>	
死傷者等	B 負傷 1人（機関長）	
損傷	<p>A 左舷中央部外板に凹損及び擦過傷</p> <p>B 右舷船尾部外板に凹損及び擦過傷</p>	
事故等の経過	<p>A船は、船長ほか4人が乗り組み、紀伊水道を約10ノット（kn）の速力で北進中、B船は、船長ほか2人が乗り組み、空船のC船を長さ約300mのえい航索によりえい航してB船引船列を構成し、A船の右舷前方を約6knで北西進中、平成21年11月30日03時00分ごろ、A船の船首部とB船のえい航索の中央部が衝突した。</p> <p>B船は、その衝撃で左に大きく旋回し、A船の左舷中央部とB船の右舷船尾部が衝突した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：波高 約1m</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船は、日ノ御埼西方沖を自動操舵により北進中、単独で船橋当直中の二等航海士Aが居眠りに陥り、B船引船列に気付かなかったものと考えられる。</p> <p>B船引船列は、北西進中、船長Bが、左舷後方から接近して来るA船の灯火を認め、音響信号を行ったものと考えられる。</p>

原因	本事故は、夜間、日ノ御埼西方沖において、A船が北進中、B船引船列が北西進中、船橋当直中の二等航海士Aが居眠りに陥り、B船引船列に気付かなかったため、A船がB船引船列のえい航索に衝突したことにより発生したものと考えられる。
----	--